

1. 日時

2024 年 4 月 14 日(日)15:00~18:28

2. 場所

Web 会議(Zoom 使用)

3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事20名

理 事 長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

出席理事:赤木禎治、犬塚亮、岩本眞理、大内秀雄、落合由恵、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、
金成海、鈴木孝明、須田憲治、瀧間浄宏、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、星合美奈子、
増谷聡、三谷義英

出席監事:市田路子、河田政明、土井庄三郎

出席幹事:青木雅子、津村早苗、永井礼子、中川直美

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として、小野理事と笠原理事が選任された。

6. 前回議事録の確認 …………… 資料 1p.1

前回議事録への異議はなし。

7. 審議事項:

第 1 号議案:課題研究委員会規則改訂について (学術・犬塚理事) …………… 資料 2p.18

提案内容

研究課題 B を随時応募とすることについて既に学術委員会と理事会で承認された内容を反映させて課題研究委員会設置規則を改訂した。課題研究委員会設置規則改定案について承認のお願い。

議決結果:全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

随時応募とは期限なしと理解してよいか。費用の発生の有無による区別はあるか。

上記に対する説明

期限なしの随時募集であり、費用が発生しない研究課題 B についてのみの対象となる。

第 2 号議案:小児心不全薬物治療ガイドライン 2015 年」の改訂班について(学術・犬塚理事)……

資料 2p.23

提案内容

小児心不全薬物治療ガイドライン 2015年の改訂班の構成について、武田先生を委員長とする班員構成とする。関連学会として、日本成人先天性心疾患学会、日本小児心筋疾患学会、日本新生児成育医学会に参加学会として委員を推薦いただいている。

議決結果:全員一致で承認された。

第 3 号議案:手術動画(手術記録)提供に係る同意取得関連資料について (次世代・中野理事)……

資料 2p.24

提案内容

過去の1)外科系教育セミナー内容のアーカイブ化によるHP上での会員の閲覧、および2)小児心臓血管外科医師涯育成プログラムにおける動画による技術判定において、動画などの個人情報の提供について、2名の弁護士に同意書の必要性や内容について相談し、ひな形文書を作成し、リーガル確認を受けた。承認をお願いする。

カテーテルの動画を教育目的でHPなどに公開の手順も、顧問弁護士に確認して進める。

議決結果:全員一致で承認された。下記、議論を受けて、本ひな形文書による運用については学会倫理委員会を通すことが決まった。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

- ① 小児循環器学会の倫理委員会を通すと考えてよいか。若手育成において病院長の同意とともに、倫理委員会、および、学会の承認が必要であるという施設がある。
- ② 理事会承認でよいと思われるが、倫理委員会は必要時でよいのではないか。
- ③ 個人情報保護の観点から、小児循環器学会の倫理委員会の承認を通さなくてもよいのか。
- ④ プライバシー保護のところで作業後の動画は削除または編集して2次利用されることはないという説明になっている。教育用の教材であれば永久にアーカイブしておくようなイメージがあるが、削除するのか。

上記に対する説明

①②③ 施設長の許可、倫理委員会の承認の両方が必要な場合もあると思われる。

倫理委員会には臨床倫理と研究倫理という主に2つの枠組みがあり、研究に属するものではない場合、倫理委員会にどのように合致するかどうか不明であり、施設長の許可のみで行われる場合

もある。

理事会承認および倫理委員会承認の2つをとることが望ましい。

本学会の倫理委員会承認を経てその書類を各施設で用いていただく。各施設の倫理委員会に申請するための、各施設用のひな形は作成している。

④ 削除は、育成プログラムに関する、技術判定における手術動画についてのみとなる。

第 4 号議案:評議員会を WEB 会議可能とすることについて(次世代・岩本/落合理事) …… 資料 2p.32

提案内容

(1)働き方改革委員会:学術集会前日の評議員会を WEB 会議可能とすることの提案

学術集会の前日に 理事会・評議員会が開催される。学術集会が7月の木～土曜日の開催となることが多く、評議員会と合わせると連続4日となる。評議員会が WEB参加で可能であれば、日常診療への影響が少なく、時間ロスを減らすことで間接的に時間外労働の削減につながる。

(2)多領域専門職委員会:評議員会のハイブリッド開催の検討依頼

評議員会は毎年学術集会の開催に先立ち、水曜日に開催されることが多い。多領域専門職の評議員 7 名のうち、6 名が看護系大学教員であり、授業・実習のため、平日に学会に参加することが難しい。その結果、評議員会が対面のみで開催では、多領域専門職のほとんどの評議員が評議員会を欠席せざるを得ない。ハイブリッド開催を検討いただきたい。

議決結果:別日程での WEB開催として、全員一致で承認された。開始は 2025 年度以降の評議員会について検討する。

今後の学術集会に関して、多領域からの参加を増やすのに、木金土でなく、金土日を開催を検討して頂きたいと多領域からお願いした。

第 5 号議案:専門医更新審査について(専門医・増谷理事) …………… 資料 2p.34

提案内容

専門医更新の審査結果について承認をお願いしたい(事務局より名簿供覧)

更新対象者:69 名

内訳:更新認定者 62 名(認定期間は 2024 年 4 月～2029 年 3 月)

更新辞退者 4 名

更新保留者 1 名(取得単位不足による)

更新留保者 2 名(体調、留学による)

議決結果:全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

辞退および留保とはどのような理由であるのか。

保留は次年度の機会を得ることができるか。

上記に対する説明

辞退および留保の理由は詳しくは調査していないが、開業や定年退職などが多い印象である。
保留は1年以内に単位が満たされれば更新可能である。

第 6 号議案:修練施設の更新と年次報告/心疾患調査の締切について(専門医・増谷理事) …… 資料 2p.34

提案内容

修練施設(群)の更新について2月末を締切りとしたが、年次報告や心疾患実態調査の締め切りが3月末であり、混乱を生じた。いずれも新年度4月の認定に必要なため、これらの締め切りを2月末へ変更したい。

議決結果:全員一致で承認された。

第 7 号議案:「その他の学会・研究会・セミナー」の認定について(専門医・増谷理事) …… 資料 2p.34

提案内容

地方会等委員会、専門医制度・認定委員会で審査をした以下の内容につき、理事会承認のお願い。

- ① 山陰小児循環器談話会: 2024 年度より終了
- ② 日本川崎病学会:2027 年 3 月までの認定継続
- ③ 日本周産期循環管理研究会:2024 年 4 月より 5 年間の期間延長(書類審査済)
- ④ 東京女子医大セミナー:連絡をしたところ今後の開催予定がたたず、取り下げ
- ⑤ Informal JCIC:2024 年 4 月から 5 年間の更新(書類審査済)
- ⑥ 関東胎児心エコー勉強会:2024 年 4 月より 5 年間の新規認定(書類審査済)

議決結果:全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

Informal JCIC は、informal な学術集会でも認定してよいのか

上記に対する説明

Informal JCIC は、書類審査からは適格な学術集会であると判断された。Informal という名称は、あくまで若手が参加しやすく教育的な会を意図した名称であり、学術集会としては適格である。

第 8 号議案:日本肺高血圧・肺循環学会の「その他の学会・研究会・セミナー」への分類移行と単位について(専門医・増谷理事) …… 資料 2p.34

提案内容

(1)認定:日本小児肺循環研究会が日本肺高血圧・肺循環学会へ統合され、日本小児循環器学会の分科会でなくなった。書類審査を行ったところ、“その他の学会・研究会・セミナー”の要件を満たしていることが確認されたことの承認のお願い。

(2)専門医の更新単位:現専門医制度の研修単位を何単位とするかについて 2024/3/12 の専門医制度・認定委員会で審議し、委員会としては 3 単位で認めることとした。承認のお願い。

議決結果:日本肺高血圧・肺循環学会の単位については、理事投票の結果、3単位13名、5単位7名であり、3単位とすることが承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

3 単位とする理由として、現行の規定通りであり、これまでの単位の運用実態に即している。公平性・バランス、“特に親しい学会”を定義すると他学会への誤ったメッセージになり兼ねない、日本専門医機構認定の専門医新制度への移行途中であることなどがあげられる。専門医更新単位として5単位にしないと当学会員の不都合があるとは考えにくい。

5単位とする理由として、歴史的な分科会であったものが発展的に統合され、分科会の要件を満たさなくなっただけであること、客観的にみて日本小児循環器学会に密接であることが挙げられる。理事会での合意による単位とすることがよい。今後、川崎病学会などについても考えていかなければならない。

上記に対する説明

上記を踏まえて、理事による投票で決議する。

第 9 号議案:専門医制度付則の改定について(専門医・増谷理事) …………… 資料 2p.34

提案内容

日本小児循環器学会専門医制度付則(第 5 章 専門医資格更新 第 15 条)の改訂案について

①(新)3.単位が足りず、保留する場合は保留期間は1年である。保留 1 年で更新した場合、更新後の認定期間は 4 年間となることを明示する。

②(新)4. 病気や海外出張などの場合は審査の上、認定期間を延長することができる。この場合、次回の更新に際して、前回認定後の単位を5年を超えて算入することができることを明示する。

議決結果:全員一致で承認された。

第10号議案:K コード主担当学会変更について(保険診療・小野理事) …………… 資料 2p.37

提案内容

診療報酬上、日本胸部外科学会が主学会として登録されている医療技術のなかで、K573-1 経皮的心房中隔欠損作成術(ラシュキンド法)などの医療技術の主学会を日本胸部外科学会から日本小児循環器学会へ変更することについての提案。

議決結果:全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

① static BAS が、内科系学会社会保険連合経由で採択されたため外保連試案を小児循環器学会で作成することになる。ラシュキンド法の試案に準拠して作成すれば良いと考えられたが、ラシュキンド法は胸部外科学会が主学会であり、人工心肺を使用するなどが定められている。点数や内容の見直しは、主学会が担っていくことになるため、K573-1、K616-3、K562-1、K570-2と static balloon については、日本小児循環器学会に主学会を移して改定する必要がある。

日本胸部外科学会では概ね承認をいただいている。

② 実働はどうなるのか。

③ 心房中隔欠損は、開胸および経皮的とではどのようになるのか。

上記に対する説明

②③ 実働は、多くは事務局が担うこととなり、施設概要など調査することになる。担当委員会としては、保険診療・臨床試験エリア(小野理事)の委員会に担当してもらう。経皮的心房中隔欠損閉鎖については経皮的卵円孔閉鎖と同様に CVIT が主学会であり、小児循環器学会としては今後検討する。今後は経皮的(経カテーテル的)手技については、本学会が主体となり関連する JCIC 学会、CVIT 学会等と連携して交渉を進めていく。

第11号議案:シンフォリウム使用成績調査・大動脈適用への参加施設認定(保険診療・金理事) …… 資料 2p.38

提案内容

シンフォリウムの使用成績調査および大動脈適用への参加施設の申請受付について、評議員宛てにメールで周知を行った。3月31日時点で31施設より申請があり、手術材料 WG メール審議の結果、31施設(資料参照)を認定することの承認を得たい。

議決結果:全員一致で承認された。

第12号議案:TPVI 管理委員会委員交代について(保険診療・金理事)…………… 資料 2p.40

提案内容

人事異動に伴う委員交代について承認のお願い

退任:石川 友一先生(福岡市立こども病院循環器科 退職)

新任:倉岡 彩子先生(福岡市立こども病院循環器科 医長)

議決結果:全員一致で承認された。

第13号議案:学校教育関係者向け HP の設置について(社会制度・檜垣理事) …… 資料 2p.41

提案内容

一般向け(主に学校関係者向け)の蘇生科学教育委員会と学会と教育の連携委員会の合同ウェブサイト構築について両委員会で審議し、内容がほぼ決定した。日本小児循環器学会のトップページの右バナー「一般の方へ:先天性心疾患・子どもの心臓病の解説サイト」のリンク先に、本合同ウェブサイトのリンクを貼ることの提案。

議決結果:WEB サイト構築の方向性は、全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

① “一般の方へ”は厚生労働省の関連であるため、使用には検討が必要になるのではないのか。

② “一般の方へ”から入り、更に“教育関連の方へ”入る2段階になるのか。

③ トップページに、“学校の先生方へ”のバナーができるのではないのか。

上記に対する説明

- ① コンテンツは別会社で作成するが、小児循環器学会HPから入ることになる。
- ②③ バナーを新たに設けるか、現在の“一般の方へ”から入るかは今後検討する。

第14号議案:多領域会員からの理事選出について(未来予想図・山岸理事) …… 資料 2p.42

提案内容

多領域専門職会員から理事を選出することと、定款および細則の変更。

定款 第 13 条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事10人以上20人以内→10人以上21人以内

細則 第 4 条

2 選出理事による理事会は、若干名の推薦理事を選任する。推薦理事は、地区別、専門別の均衡化、方針の一貫性の維持を考慮して選ばれ、うち 1 名は多領域専門職とする。

議決結果:全員一致で承認された。

補足説明

具体的には7月の総会で定款改定を審議することとなる。今期理事会の途中からでも理事会に入っていただくことができればと考えているが、遅くとも次期理事会の改選からは選出される。

第15号議案:学会 HP のリニューアルについて(未来予想図・山岸理事) …… 資料 2p.43

提案内容

現在のホームページはデザイン・内容・構造に課題があり、リニューアルを検討する事が必要。心臓血管外科医育成プログラム・機構専門医認定システムをふまえてホームページを更新する良い機会である。本リニューアルは広報委員会では対応できず、学会として別予算・別チームを構成して、リニューアルする必要がある。

議決結果:全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

別チームとはどのような組織であるのか。

別予算はどのようになるのか。

上記に対する説明

チームは、広報委員会の下部のWG とすることを考えている。

リニューアルの方向で、WGをつくり、予算を含めて継続審議とする。

第16号議案:2024 年度事業計画・予算について(未来予想図・山岸理事) …… 資料 2p.44

提案内容

各委員会からの 2024 年度予算申請について審議する。

議決結果: 予算案作成にあたり、一部の追加、修正後、全員一致で承認された。この各委員会から申請された予算と学会経常運営費等をふまえて、2024 年度予算案を作成し、7 月の理事会、総会で審議

する。

7. 報告事項:

◆理事長報告

1. 持ち回り理事会報告(特になし)

2. 要望書等提出状況について報告された。

・軟質実物大 3D 心臓モデルの保険適用に関する要望書 (山岸理事長)

・ピアレビューによる動物実験の機関管理と認証評価に関する特別法の制定に関する要望書(山岸理事長)

3. その他

・日本医学会連合連携共催フォーラム申請 資料 3p.60

他学会と連携して学会における SNS 広報の在り方を考えるフォーラムについて申請していることについて報告された。

◆会長報告

1. 第 59 回学術集会開催報告(鈴木孝明会長) 資料 4p.68

第 59 回学術集会の収支、参加登録数、演題数、招待外国人数、セッション数などについて報告された。

アンケート結果については理事会で公開の予定。学会主導のパネル、シンポが計 19 セッション、会長要望が約 10 セッション認められており、委員会企画が 10 セッションあって、どうしても主題セッション同士が重なってしまう。アンケートでも、重なって参加できなかったセッションがあるのでオンデマンドでやって欲しいという意見が多かった。この場合問題は費用。評議員会を Web で行うことによって節約できる会場費を当てることができるのか、予算の範囲内でどれだけのセッションをオンデマンドにするのかなど、考えていく余地があろうか。演題採択の連絡が遅い、抄録集が出るのが遅い、との指摘もあった。座長や指定演者の指定、承諾などを確定するのに時間を要したこと、誰が責任を持ってこの作業を進めるのかが今後の課題と思われる。アンケート結果については 60 回会長の須田先生になるべく早くご報告する。

2. 第 60 回学術集会準備報告(須田憲治会長)

学会主導のパネル、シンポが計 19 セッション、会長要望が 6 セッション、委員会企画が 11 セッションを予定している。今回は JCK もあるので、重なることは避けられないか。JCK については韓国からの回答が遅れており、催促をしているところである。再来週までにお返事を頂くように手配中。なるべく早期にプログラム作成をするように鋭意準備中との報告があった。

3. 第 61 回学術集会準備報告(三谷義英会長)

協賛の関係(特に外資系)では事業年度が日本と異なるため、第 60 回学術集会が終わってから趣意書を提出したのでは締め切りに間に合わなくなる。そのため第 60 回学術集会の準備が進んでいる段階(5 月くらい)には出すという状況が生じてしまうことになる可能性があることが報告された。→これは第 60 回の運営には影響は出ないと考えられる。

◆各エリア委員会報告

● 学術エリア 主・犬塚理事、副・豊野理事、中野理事 資料 5p.71

● 内科系教育委員会報告(犬塚理事)

- ① 第 16 回教育セミナーAdvanced course :2025 年 2 月 8 日(土)~9 日(日)。ハイブリッド開催。(小野先生)
- ② 機構認定の小児循環器学会専門医のための e-learning のシステムを構築するための準備を開始した。
- ③ 第 15 回教育セミナーAdvanced course:資金繰りが大変だったが予算内で収まった。オンデマンドを導入して集客に役立った。内科系の教育セミナーを開催するにあたって参考になるデータと考えている。

● データベース小委員会(犬塚理事)

- ・来年度以降の心疾患実態調査について。専門医制度委員会からは修練施設の認定、更新作業との関連で年次報告の入力締め切りを 2 月末日に切り上げたいとの意向あり。心疾患実態調査も同じ入力システムを使用しているためあわせて 2 月末日の締め切りとすることが承認された。

● 外科系教育委員会(中野理事)

- 1) 第 9 回外科系教育セミナー テーマ:「再開胸と癒着剥離」が行われたことが報告された。
- 2) 小児心臓血管外科医生涯育成プログラム制度の小児科医の認知度が低いことが問題点として報告された。
術後の quality 評価は、小児科医による心エコー評価が大きな部分を占めるため、小児科医にもその存在と、エコー評価結果の重要性について認知度を上げる必要がある。
- 3) (東京女子医大の心臓標本の3D デジタル)アーカイブ化について、全体をまとめる体制が構築されていないことが問題となり、まずはワーキンググループを立ち上げて審議することになったことが報告された。

● 形態登録小委員会(犬塚理事)

学術集会の標本展示テーマが、須田先生からの申し出で、(その他のシンポジウムとの兼ね合いがあり)、Ebstein 病に変更された。それに伴い、標本の再選択を施行中である。解説動画も Ebstein に変更して作成予定。展示記念講演は埼玉県立小児医療センターの野村先生に依頼して、承諾をいただいた。

● 研究委員会(犬塚理事) 以下が報告された。

- ①先天性冠動脈対側冠動脈洞起始症の外科症例についてのアンケート調査依頼が小児循環器学会に来ている(富山大学心臓血管外科 芳村直樹先生):研究課題 B としてご応募いただき進めることになっている。
- ②芳村先生からのアンケート調査依頼に端を発して学会が行うアンケート調査について倫理審査の必要性や枠組みの作成について検討していくこととなった。
- ③進行中の課題研究委員会(2023 年の時点で進行中の 11 題)について年次報告書の審議を研究委員会で行い、全て承認した。
- ④2024 年採択の研究課題 A の 2 題について学会のアンケート調査と研究協力施設の募集を行った。
- ⑤研究課題 A「先天性門脈体循環シャントにおける治療法の確立と遺伝学的要因の解明」についてアンケート調査を実施した。

- 遺伝子疫学小委員会(犬塚理事)

現在取り組んでいる以下の 2 つの活動について報告された。

1. 18 trisomy の先天性心疾患に対する手術介入に関する疫学調査
2. 心疾患エコチル調査

今後の活動として、心臓腫瘍の全国調査を行う計画があることが報告された。

- ガイドライン委員会(豊野理事)以下が報告された。

第 2-4 回ガイドライン委員会(メール審議)と第 5 回ガイドライン委員会(オンライン開催)の内容について報告された。

また、以下の 2 つのガイドライン英文を HP に掲載したことが報告された。

- ・胎児心エコー検査ガイドライン(稲村 昇班長, 2021 年)
- ・学校心臓検診 2 次検診対象者抽出のガイドライン (鮎澤 衛班長, 2019 年)

本学会員が参画した以下 2 報の 2024 年日循ガイドラインが発刊され、本学会の HP でも公開予定であることが報告された。

- ・2024 年改訂版 多様性に配慮した循環器診療ガイドライン
- ・2024 年改訂版 心臓血管疾患における遺伝学的検査と遺伝カウンセリングに関するガイドライン

「免疫不全状態にある患者に対する予防接種ガイドライン 2024」が 2024 年 4 月に発刊となることが決まった。

「小児心不全薬物治療ガイドライン 2015 年」の改訂の班構成について学術委員会にて承認された。

質問:遺伝性不整脈と IE に関するガイドラインについて、英文誌へ同時に投稿してもらうようにできないか、という話が合ったのではないか。

回答:日循の Circulation Journal には掲載されることになっている

質問:小児循環器学会の英文誌にも掲載することが重要ではないか。

回答:日循ガイドラインへの参加方法として、合同学会と参加学会という形式があり、合同学会に認められると掲載可能である。遺伝性不整脈に関しては合同学会ではなく、参加学会という立場であったため難しい(山岸理事長)。

- 学術集会支援委員会(犬塚理事)

概ね例年通りの予算申請を行っていることが報告された。その中で非学会員の招聘に関して昨年度まで 100 万円であったが今回は、150 万円となっている(昨年かかった額の実態に合わせて増額した)。

学術集会に対するアンケートに関しては、次年度に行われるシンポジウムのテーマ、カテゴリー、コーディネーターなどへの意見を中心とした、学会員の意見を反映しやすいアンケートの内容に変更していくことを企画しており、アンケート費用の 5 万円を予算申請している。次回の学術集会後のアンケートから、学術集会支援委員会が行うことを考えている。

- ジョイントセッション委員会(犬塚理事)

記載の通りとの報告であった。

- 顕彰委員会(犬塚理事)

【高尾賞】小林 徹 先生

【功労賞】山岸正明 先生、富田 英 先生 に決まった。

【YIA】日本小児循環器学会雑誌または Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery に掲載された原著論文から例年 2 名選出しているが、今年を対象となる論文の掲載自体がなく、他学会の英文誌に掲載された論文として応募された中から 2 論文を選出したことが報告された。

予算について、山岸理事長から各委員会に関する報告があった。

外科系教育委員会についてはあけみちゃん基金から出ることになっていることが補足された。

(後述)

- 渉外エリア 主・三谷理事、副・赤木理事 資料 5p.84

- 渉外委員会(三谷義英委員長)

AHA(小循、シカゴ)、AEPC(小循、ポルト)、TCPS WSPCCS 2025 Hong Kong、APPCS 2025(パキスタン)、日本循環器学会、日本小児科学会、日本心臓病学会、JSCPPS-JCC 以上の学会との交渉内容(短期交換留学を含めて)について報告された。

WSPCCS 2025 Hong Kong に関しては最初の scientific committee に日本からの指名が4名のみであったため、理事会の方で、各々の track への候補者を WCPCCS 事務局に送付済である。

国際学会の参加者が、コロナ後、円安と物価高の影響で(特に若手の)参加人数が減っているようであることが報告された。

アジア向けの Web セミナーについての予算計上があることが報告された。この Web セミナーは ACHD Night と連携して 7 月 5 日に予定されている。

● 次世代エリア 主・中野理事、瀧間理事、副・岩本理事、落合理事 資料 5p.90

・次世代育成委員会(中野俊秀委員長)

・あけみちゃん基金 助成申請案について:小児心臓外科医育成に対する助成。以下の 7 つの案(趣意書)を基金に提出した。

基金側から内容の確認があった。外科医の育成という主旨に合致する事業は問題がない印象だが、他の目的が入ると助成が難しいようであった。

①育成プログラム運営経費、②育成プログラム登録管理システム構築費、③小児心臓外科ハンズオン開催費用、④小児心臓外科ウインタースクール開催費用、⑤外科系教育委員会活動費用、⑥若手心臓外科医短期臨床留学援助、⑦先天性心疾患心臓標本デジタルアーカイブ化事業。

②(500-600万円)に関しては、今年度は3つ以上の業者からの見積もりを取って要望書を出してほしいとのこと。準備期間がかかるため、今年度の申請ではなく、来年度に申請をすることとなった。⑥に関しては320万円を申請しているが、学会への応募がなかった場合には基金への返金が必要となる理由もあり、以前運用されていたあけみちゃん基金の奨学金制度(規約、内規)の枠組みで基金側として運用を実施したい、との提案があった。これに関して検討します、とお返事をしている。

この2つ以外のご理解、承認いただいた。

極力、資金のやり取りは少なくしてほしいとのことで、申請された金額を纏めて学会に振込し、使わなかった金額は返金するよう基金事務局より説明があった。

・産経新聞(あけみちゃん基金設立元)からの取材について あけみちゃん基金から助成するにあたり、紙面に公表する必要があるため、今後も取材に応じる予定である。

初めての紙面公表は九州の地域拠点化に関する記事。紙面と Web に載った。Web に載ると数日間であるが Yahoo ニュースにも載るという効果がある。次は育成プログラムが始まってしばらくしてから、その内容について記事化すること(埼玉医科大学国際医療センター小児心臓血管外科で取材予定)を計画中。

・日本小児循環器学会学術集会の委員会企画シンポジウムに、行政(厚労省)から代表者の参加登壇を依頼する。厚生労働省がん・疾病対策課長、西嶋氏が来てくださることになった。

・今後の行政へのアプローチとアピールの手段としての「施設集約化のシミュレーション」作成について:明日キックオフミーティングの予定。

・地域拠点化小委員会(瀧間理事)

3月15日を締め切りとして90施設に事前調査を行った。71施設から回答あり。

グループ割りの調整、まとめ役の担当理事がおおよそ決まり、担当理事と事前ミーティングを行い、各グループ間で共通コンセプトを共有する。事前に全会員にグループミーティング開始をメールで通知、順次開催の予定であることが報告された。

- 小児心臓血管外科医生涯育成プログラム小委員会(中野理事)

小児心臓血管外科医生涯育成プログラムが予定通り 2024 年春から開始となることが報告された。施設申請・育成指導医申請に関しては目標が 60 施設であるところ、議事録の事前報告よりも増えて先週末時点で 59 施設となったこと、4 月 1 日より修練医参加申請の受付を開始したことが報告された。

- 多領域専門職委員会(落合理事)

第 60 回日本小児循環器学会学術集会・総会について、パネルディスカッションの企画、学術集会アンケートについて、「多領域ミニカンファレンス」の会員限定のオンデマンド配信が開始となったこと、多領域ミニカンファレンスの再開、及び予算について報告された。

- 働き方改革委員会(岩本理事)

学術集会で労基法改正に伴う、各施設の現在の取り組みについての発表がある。

- 専門医制度エリア 主・増谷理事、副・星合理事 資料 5p.95

- 専門医制度・認定委員会(増谷理事)

①専門医:全員の更新が認定された。

②留学のため保留中の 1 件について:倫理講習の受講で単位が充足するため受講いただき、更新を認定した。

③小児科医の修練目標の更新:カリキュラム委員会を中心に更新作業を行い、小児科学会に提出した。

④修練施設の新規・更新届け出:一部書類に齟齬がありやや混乱した。次年度までにシステムを更新する。

⑤地方会等認定委員会の認定結果、について報告された。

- 専門医試験委員会(星合理事)

今年度は、11 月 3 日に筆記、面接試験が同日、対面で行われる。これまで 8 回程度の Web 委員会で試験問題の作成を行ってきたが、今年度は 1 回は対面で行う方向で調整していること、過去問題を整理し一覧表を作成していくことが報告された。

- 学会誌エリア 主・大内理事、副・須田理事 資料 5p.98

- 和文誌について(大内理事)

発行が遅れているが、今年度中には通常の時期に戻していく予定。原著が少ないことが問題。いろいろな企画から Review を依頼しているのが現状。専門医制度の中に学会として学術誌を盛り上げる体制を組み込むことはできないか、ということがこれまでに何度も議題として上がっている。何とかこの点について協議を進めていきたい。(審議事項として出したいと考えている)

- 英文誌について(大内理事)

こちらもやはり投稿が少ない。2024 年学術集会のテーマと連動し、座長(会員・非会員)の 8 人に執筆の依頼を送付したところ 7 人に承諾を得て現在 Review が進行している。一定の効果のある方法と考える。Impact Factor をきちんと得られるよう、投稿規定を改定して 2 月に HP にアップしている。

顕彰委員会と共同し若手の投稿促進につながるような新たな論文賞の創設を検討していく。学会誌から YIA を選べなかったことは危機的状況である。関連エリアとも協議し、専門医制度の中に組み込む体制についても検討していく。

以上が報告された。

質問:投稿数が減っている主な要因は?

回答:Impact Factor が大きな要因ではないか。その申請のためにはある程度質の保たれた Original が必要。そういった論文を確保するためにもある程度の義務化も必要なのではないかと考えている。

- 社会制度エリア 主・笠原理事、檜垣理事、副・城戸理事、鈴木理事 資料 5p.101

- VAD 協議会・心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会 報告(鈴木理事)

DT 実施件数がふえていること、「低使用量ステロイド以外の免疫抑制剤投与中」は除外となっているがこれを緩和、および植え込み型補助人工心臓のケアギバー体制の基準を緩和することの提案があったことが報告された。

補助人工心臓植込みの実施施設基準において厚生局基準と協議会基準に齟齬が生じており、これを統一すべく、提案を出していくという報告があった。

- 日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク(JCCN) (笠原理事)

目標 1 億円でクラウドファンディングを実施されていた。そこまでには達しなかったが 4 月から試験運用となった。中部国際空港の中日本航空会社が担当運航会社となっている。JCCN のフロー図についても報告があった。

- 小児慢性・難病対策委員会(檜垣理事)

小児慢性・難病対策委員会での問題提起、情報提供、意見交換を行ったこと、身体障害者手帳については、成人期の先天性心疾患については、18 歳未満用の書類を用いることの周知を徹底することでまずは対応する。また一部改定を要望する意見が出ていることが報告された。特別児童扶養手当に関しては一般状態区分表の区分(大島分類に基づいている、障害は寝たきりであるという概念)が今の時代の障害に合致しないだろうとの意見で見直しを求めていこうという意見が

出ていることが報告された。(今回、審議として挙がっていない事項であるが、この理事会で反対の意見は出なかったためその方向で進めていくということとなった)

- 蘇生科学教育委員会(檜垣理事)

第 60 回学術集会の市民公開講座で、PUSH 講習会と学校救急シミュレーションを進めていく方向で準備していることが報告された。

- 学校心臓検診委員会(岩本理事)

学校心臓検診のあり方 WG との合同セッション、JSPCCS/JCS 学校心臓検診 GL フォーカスアップデートについて報告された。

- 学校と教育の連携委員会(檜垣理事)

第 71 回日本小児保健協会学術集会 (2024/6/21-23@札幌)シンポジウムへの協力と、予算について一部過剰な申請であったため、訂正の報告があった。(岩本理事)

- 保険診療/臨床試験エリア 主・金理事、副・小野理事 資料 5p.112

- 保険診療委員会(小野理事)

経皮的心房中隔欠損作成術 スタティック法が 採択 16,090 点(要望 36,900 点)されたこと、他の要望事項は却下となったことが報告された(循環器分野全体の採択率は 1-2%)。4 月に次の改定について協議することが報告された。

- 臨床試験委員会(金理事)

手術材料 WG メンバー選出、およびシンフォリウムの使用成績調査および大動脈適用への参加施設申請審査、コシールの組み入れについて報告があった。

- 薬事委員会(金理事)

企業からのバファリンの供給停止に対する意見伺いに対し、承認した点について報告された。

- 経カテーテル肺動脈弁留置術管理委員会(金理事)

術者、施設認定についての問い合わせに対応していること、施設要件に変更があったこと、人的要因の欠員についての対応を行ったことなどについて報告された。

- HBD for Children 委員会(金理事)

タウンホールミーティング、テレカンファ、CRT2024(それに関わる費用)、PAS-ARC virtual meeting、および次回のタウンホールミーティング(2024 年 7 月、小児循環器学会学術集会中)とその渡航費(Web 参加なので実質不要)について報告された。

● 医療安全・倫理エリア 主・鈴木理事、副・瀧間理事 資料 5p.121

・医療安全委員会(鈴木理事)

関東地域の医療機関における死亡例に対する院内調査委員会に外部委員を 1 名推薦したことが報告された。

・利益相反委員会(鈴木理事)

COI の WEB 登録システムの構築について前回の理事会において、予算が高いということになり現在検討中。

● 未来予想図委員会 主・山岸理事長、副・坂本理事 資料 5p.124

・未来予想図委員会(山岸理事)

理事会のない月に毎月、学会全体の課題について横断的に議論している。

・広報委員会(山岸理事)

学会の HP リニューアルに関して WG で検討していく。必要経費について、厚労科研費など資金源を探す。

・小児循環器医療 DX 推進ワーキング(三谷理事)

学校心臓検診 DX の提言作成:日本小児循環器学会 2024 での委員会セッションで発表予定であること、それに先立ち、評議員の所属する施設に対しアンケートを行う予定であることなどが報告された。

4. 懇談事項

特記事項はなかった。

5. 閉会

18 時 28 分に山岸理事長の声掛けにより閉会となった。